News Release

National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人 製品評価技術基盤機構
法人番号　9011005001123

2026年10月29日

適切な離隔距離、知っていますか？
～暖房器具は可燃物との距離を確保して火災を防ぎましょう～

厳しい暑さの続いた夏が終わり、朝晩は冷え込みを感じる季節となりました。これから暖房器具の使用機会が増えますが、暖房器具による火災事故は毎年発生しています。事故を未然に防ぐため、シーズン初めには電源コードや本体の状態を点検し、使用上の注意事項を確認するなど、適切に使用することが大切です。

独立行政法人製品評価技術基盤機構［NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原］は、暖房器具の事故を防止するために、点検方法や使用方法のポイントを紹介します。


電気ストーブに接触した衣服が発火


石油ストーブに落下した洗濯物が発火

2021年から2025年までの5年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報※1では、主な暖房器具※2の事故が543件ありました。そのうち、電気ストーブ※3・電気ファンヒーター（以下、電気暖房器具）及び石油ストーブ・石油ファンヒーター（以下、石油暖房器具）の事故が約8割を占めています。

「電気暖房器具」及び「石油暖房器具」について、使い始めや日常使用時に点検のポイントを確認するとともに、使用時には洗濯物などの可燃物を暖房器具の近くに置かないようにしましょう。

■「可燃物の接触」に要注意！

☑ 洗濯物や布団、衣類、クッションなどの可燃物を暖房器具の近くに置かない。
　取扱説明書等に記載されている壁や可燃物との距離が十分に確保されているか確認する。
☑ 就寝時や外出時は、必ず電源を切る（火を消す）。

■“電気”暖房器具の点検のポイント

☑ 製品がリコール対象製品ではないかを確認する。
☑ 電源コードや電源プラグが破損・変形していないか、たこ足配線になっていないかを確認する。

■“石油”暖房器具の点検のポイント

☑ 置き台にほこり等があれば取り除く。
☑ 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
　灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
☑ 給油時はカートリッジタンクのふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

（※） 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。
（※1）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。
（※2）主な暖房器具とは、電気ストーブ・電気ファンヒーター、石油ストーブ・石油ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター、電気カーペット、電気こたつを指します。
（※3）電気ストーブには、ハロゲンヒーター、パネルヒーターを含みます。

１.事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2021 年から 2025 年までの 5 年間に発生した主な暖房器具の製品事故 543 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 製品別×年別の事故発生件数

NITE が受け付けた主な暖房器具の製品事故情報について、年別の事故発生件数を図 1 及び図 2 に示します。主な暖房器具では電気暖房器具及び石油暖房器具の事故が多く発生しています。また、電気暖房器具では、毎年 40 件前後の事故が発生しほぼ横ばいの傾向です。

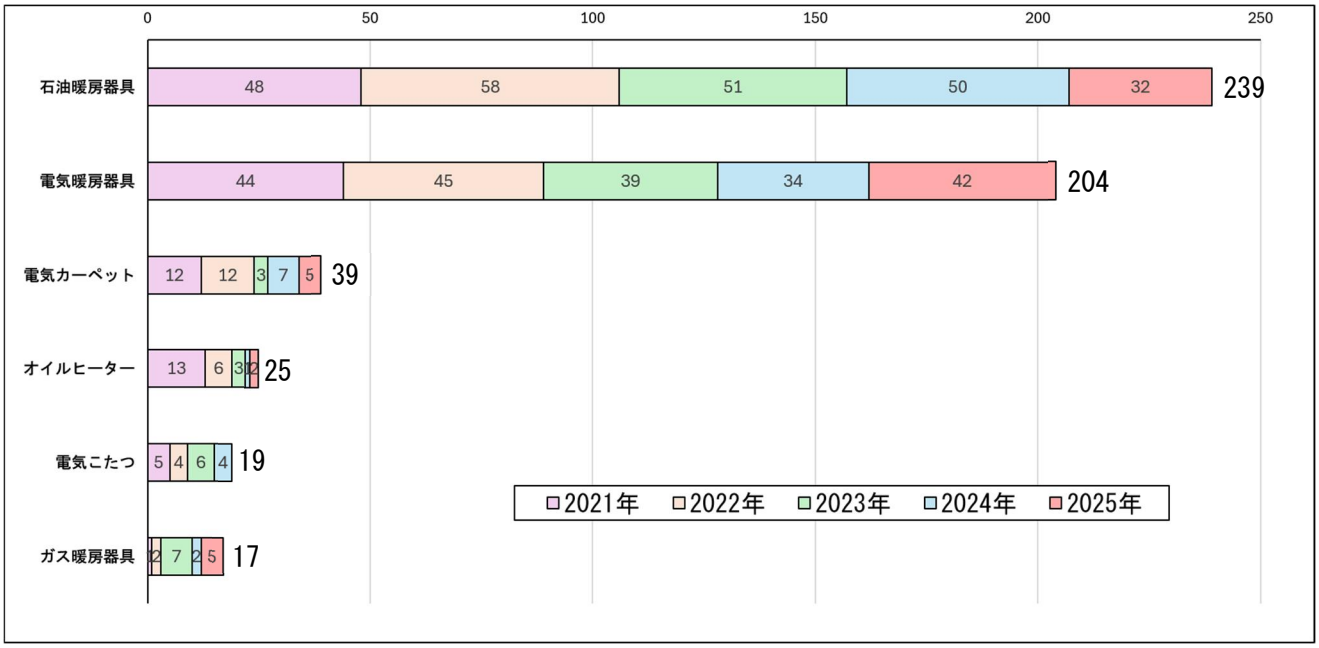


図１：年別の事故発生件数

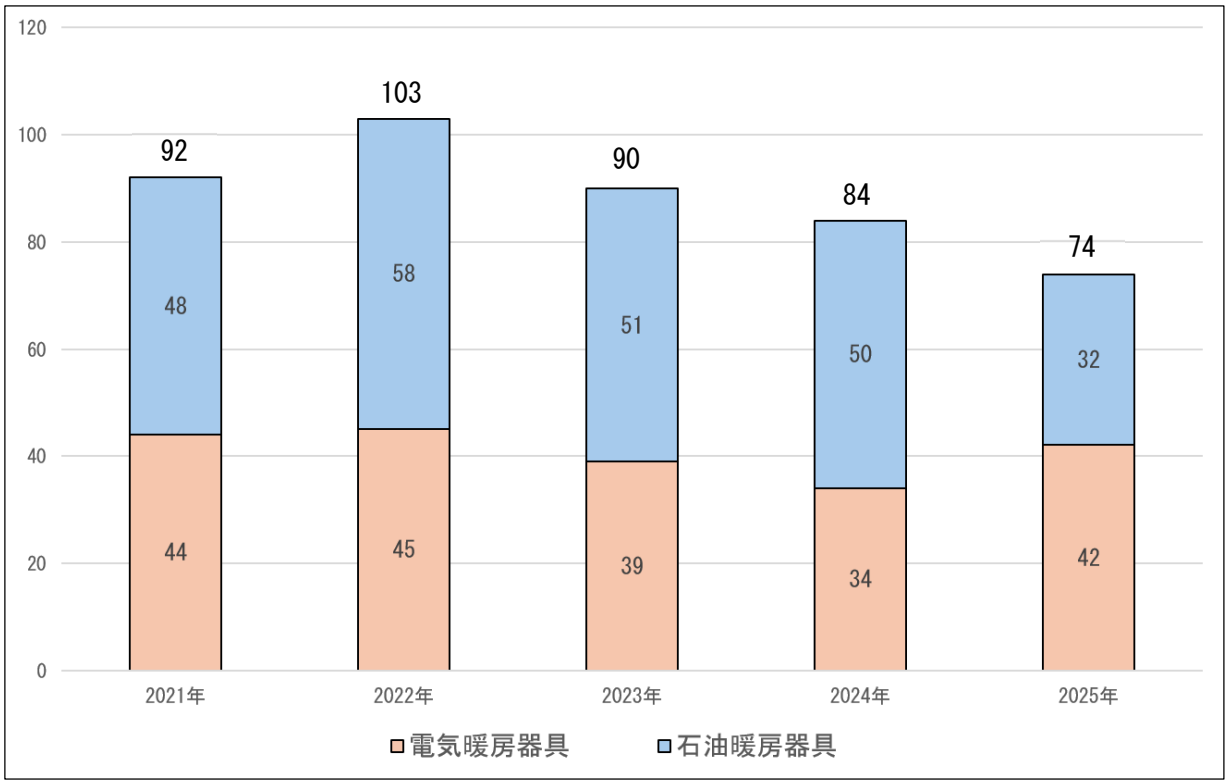


図２：電気暖房器具、石油暖房器具の年別の事故発生件数

1-2. 月別の事故発生件数

特に事故の多い「電気暖房器具」及び「石油暖房器具」について、過去 5 年間の月別の事故発生件数を図 3 に示します。事故発生件数は 11 月頃から大きく増加し、電気暖房器具及び石油暖房器具のいずれも、12 月から 2 月にかけて事故が集中しています。

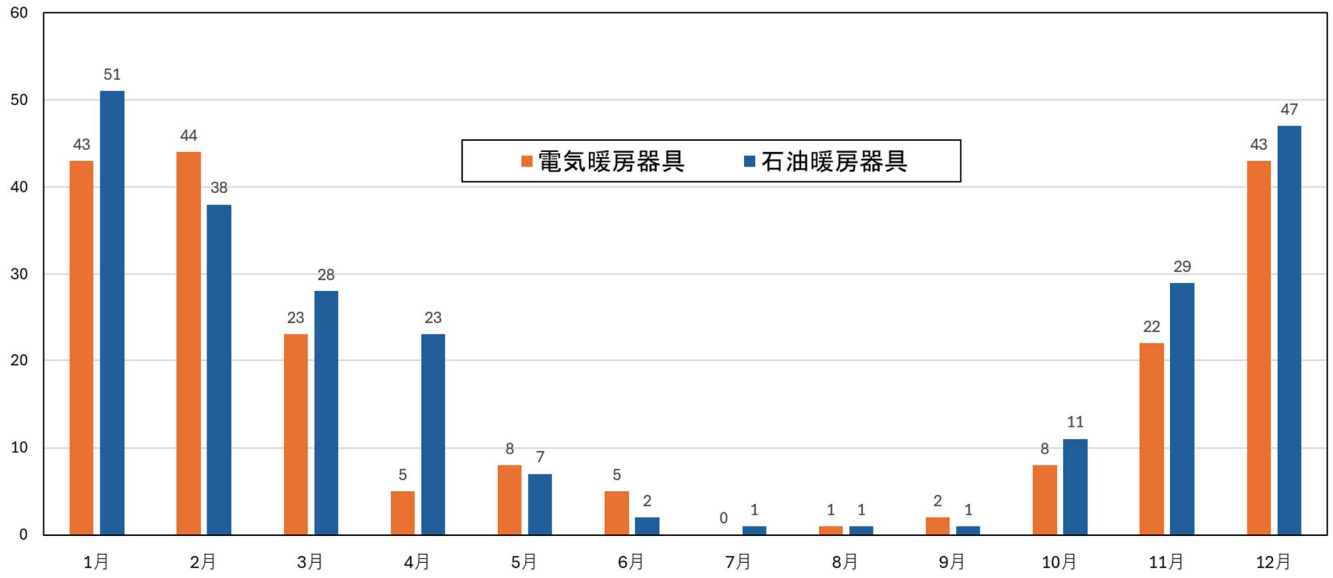


図３：月別の事故発生件数

1-3. 年代別の事故発生件数

「電気暖房器具」及び「石油暖房器具」について、過去 5 年間の年代別の事故発生件数を図 4 に示します。「電気暖房器具」では、幅広い年代で事故が発生し、「石油暖房器具」では、70 歳代以上の事故の割合が多くなっています。特に石油ストーブでは高齢者の割合が高くなっており、加齢に伴う判断力や身体機能の低下、長期使用での慣れによる油断などの要因が考えられます。

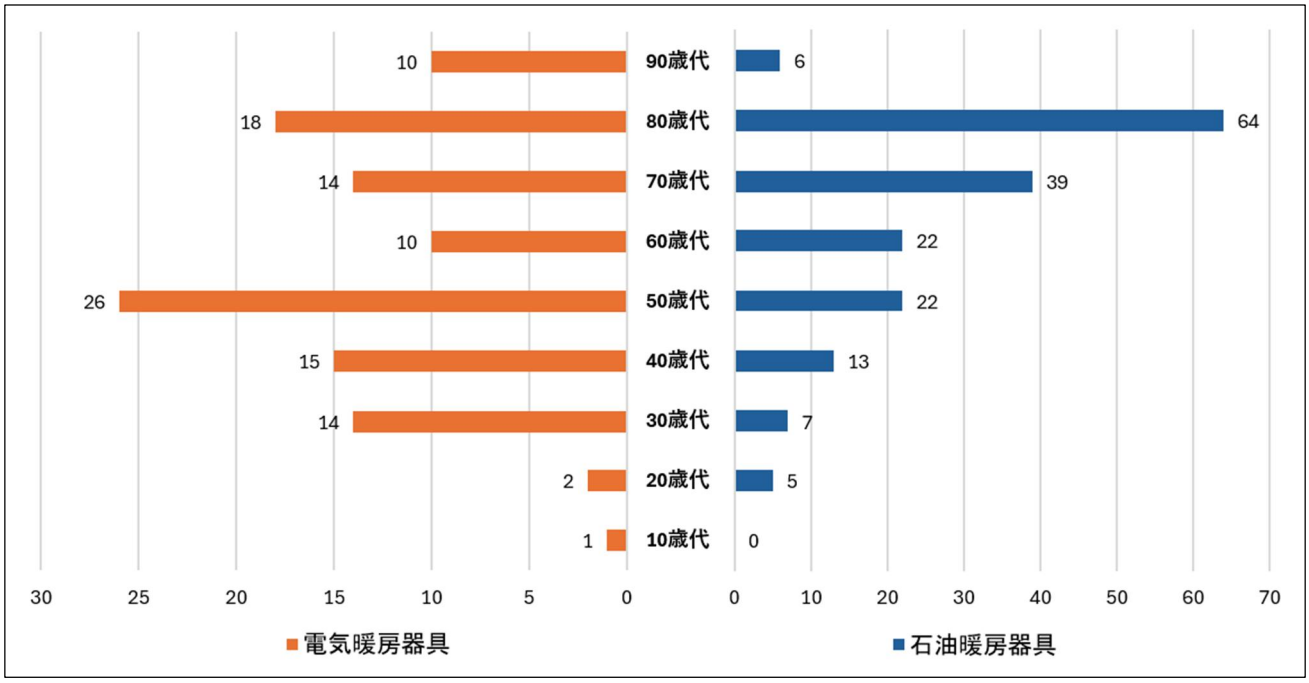


図４：年代別の事故発生件数　※年齢不明を除く
（左：電気暖房器具、右：石油暖房器具）

1-4. 電気暖房器具の事故状況

1-4-1. 電気暖房器具の事故の被害状況

電気暖房器具の過去 5 年間の製品事故 204 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。火災事故や周囲への拡大被害が多く発生しています。

表 1　被害状況別の事故件数[電気暖房器具][※5]　　()は被害者数。

被害状況		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	総計
人的被害	死亡	2(2)	2(2)	3(3)	7(8)	3(3)	**17(18)**
	重傷	2(2)		1(1)	1(5[※6])		**4(8)**
	軽傷	3(3)	3(5)	(2)	1(18[※6])	4(5)	**11(33)**
物的被害	拡大被害[※4]	23	27	25	16	29	**120**
	製品破損	14	13	10	8	6	**51**
不明・被害なし					1		**1**
総計		**44(7)**	**45(7)**	**39(6)**	**34(31)**	**42(8)**	**204(59)**
うち火災件数		32	39	35	30	42	178

（※4）製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。
（※5）物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。
（※6）加湿機能付き電気ストーブでレジオネラ菌が繁殖したことにより、重傷 4 名、軽傷 16 名の被害が発生した事故が 1 件あります。

1-4-2. 電気暖房器具の事故の事象別ワースト

原因の特定ができた事故情報[※7]における事故の事象別ワーストを表 2 に示します。電気暖房器具の事故事象としては、「内部配線の断線や接触不良による異常発熱」「電気回路基板、電子部品の異常発熱」など、製品に起因する事故が多く発生しています。また、使用方法に起因する事故として、「繰り返しの屈曲等による電源コードの断線に伴う異常発熱」や「ヒーターへの可燃物の接触による出火」が多く発生しています。

表 2　事故の事象別ワースト[電気暖房器具]

事故事象	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計
内部配線が断線や接触不良により異常発熱				24	12	**36**
繰り返しの屈曲等により電源コードが断線し異常発熱				14	10	**24**
リコール対象製品の事故 （リコールが実施されていたが未対応の製品による事故）		1		9	10	**20**
可燃物が接触して（又は放射熱で）出火	2		4	9	1	**16**
電気回路基板、電子部品の異常発熱			1	6	6	**13**

（※7）事故原因の特定までには至っていないが、その事象が原因である可能性が高い事故も含まれます。

1-5. 石油暖房器具の事故状況

1-5-1. 石油暖房器具の事故の被害状況

石油暖房器具の過去 5 年間の製品事故 239 件における被害状況別の事故件数を表 3 に示します。火災事故の他、死亡事故等の人的被害が多くなっています。

表 3　被害状況別の事故件数[石油暖房器具][※8]　　()は被害者数。

被害状況		2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	総計
人的被害	死亡	9(12)	12(13)	11(13)	7(7)	6(6)	**45(51)**
	重傷	2(3)	4(4)	3(3)	2(3)		**11(13)**
	軽傷	8(13)	10(21)	5(8)	18(19)	6(8)	**47(69)**
物的被害	拡大被害[※9]	22	28	26	17	17	**110**
	製品破損	7	4	5	6	2	**24**
不明・被害なし				1		1	**2**
総計		**48(28)**	**58(38)**	**51(24)**	**50(39)**	**32(14)**	**239(133)**
うち火災件数		46	57	51	49	30	233

（※8）()は被害者数。物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

（※9）製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

1-5-2. 石油暖房器具の事故の事象別ワースト

原因の特定ができた事故情報[※10]における事故の事象別ワーストを表 4 に示します。カートリッジタンクに給油した際の灯油漏れ、洗濯物等の可燃物の接触、ガソリンの誤給油による事故が多くなっています。

表 4　事故の事象別ワースト[石油暖房器具]

事故事象	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計
給油口ふたの閉め忘れ及び締め付け不良などにより漏れた灯油に引火	5		2	14	3	**24**
可燃物が接触して（又は放射熱で）出火	1		3	10	3	**17**
ガソリンの誤給油により出火			5	12		**17**
清掃不足による異常燃焼や堆積物への引火	1	2		8	2	**13**
スプレー缶が近接して破裂したり、近くで使用してガスに引火			3	2		**5**

（※10）事故原因の特定までには至っていないが、その事象が原因である可能性が高い事故も含まれます。

２.事故事例

■布団が接触して発火　【電気暖房器具】

事故発生年月　2025 年 1 月（愛媛県、70 歳代・女性、軽傷・拡大被害）

【事故の内容】

使用中の電気ストーブ付近から出火して、住宅を全焼し、1 名が火傷を負った。

【事故の原因】

電気ストーブを使用したまま就寝したため、寝返りを打った際に布団が掛かり、焼損したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「寝具などが触れて火災の原因になるため、就寝中は使用しない。本体の一定範囲内に可燃物がないことを確認する。」旨、記載している。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

電気ストーブ　可燃物



電気ストーブに布団が接触して発火

■電源コードが断線して発火　【電気暖房器具】

事故発生年月　2025 年 10 月（神奈川県、年齢性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、電源コード付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

電源コードの中間部で芯線が断線し、スパークが生じて焼損したものと推定されるが、通常の使用において外力が加わる位置ではないことから、製品に起因しない事故と推定される。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

電気ストーブ　電源コード　断線



断線した電源コードの発火

■給油口ふたの締め付け不良などにより漏れた灯油に引火【石油暖房器具】

事故発生年月　2024 年 12 月（東京都、80 歳代・女性、軽傷・拡大被害）

【事故の内容】

建物 1 棟を全焼、5 棟を類焼する火災が発生し、1 名が火傷を負った。現場に石油ファンヒーターがあった。

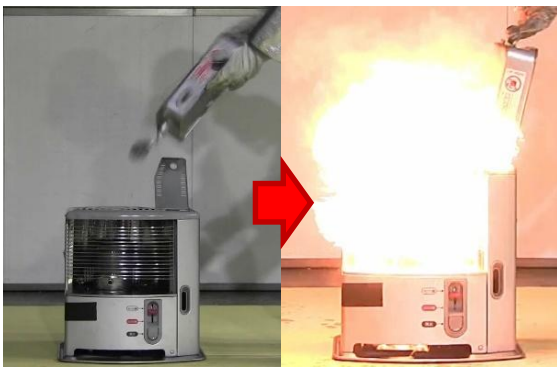
【事故の原因】

石油ファンヒーターは、給油後のカートリッジタンクが本体に戻される際に給油口ふたが外れたため、灯油がこぼれ、石油ファンヒーターに引火して火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には火災のおそれがあることから、「給油口ふたは確実に閉める。給油口ふたが外れて火災のおそれがある。」「給油は、必ず消火してから行う。火災のおそれがある。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油ファンヒーター　灯油　こぼれ



消火後間もない高温の燃焼筒に灯油がかかり引火

（※石油ストーブでのイメージ）

■ガソリンを誤給油して発火【石油暖房器具】

事故発生年月　2024 年 1 月（千葉県、年齢性別不明、軽傷・拡大被害）

【事故の内容】

石油ファンヒーター付近から出火して、住宅を全焼し、1 名が火傷を負った。

【事故の原因】

石油ファンヒーターにガソリンを誤給油したため、異常燃焼を起こし、火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書、本体及びカートリッジタンクには、「ガソリン使用禁止。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

石油ファンヒーター　ガソリン



ガソリンを誤給油して燃え上がる様子

３．電気暖房器具及び石油暖房器具の注意ポイント

「可燃物の接触」に要注意！

☑1.洗濯物や布団、衣類、クッションなどの可燃物を暖房器具の近くに置かない。
取扱説明書等に記載されている壁や可燃物との距離が十分に確保されているか確認する。

暖房器具を使用するときは、壁や周囲の家具、衣類などから取扱説明書等で指定された距離をとりましょう。カーテンや布団など燃えやすく動くものにも注意が必要です。

暖房器具に可燃物が近接していたり接触したりしていると、放射熱※11 による過熱や高温部への接触によって、火災になるおそれがあります。

（※11）放射熱とは、高温の物体が発する赤外放射などによって離れたところに伝わる熱。



電気ストーブに衣服が接触して発火

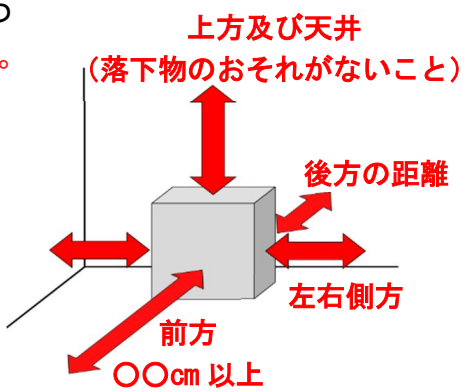


石油ストーブの上に洗濯物が落下

（距離表示の記載例）

取扱説明書に周囲の物や天井、壁などから離す距離について記載があります。※距離は製品によって異なります。

一例として、火災予防条例において定められている離隔距離では、電気ストーブ（定格入力 2kW 以下の前方放射型）の場合、可燃物との距離を前方・上方 100cm 以上、側方 30cm 以上、後方 4.5cm 以上確保することとされています。なお、必要な距離は機種によって異なるため、必ず取扱説明書を確認してください。



☑2.就寝時や外出時は、必ず電源を切る（火を消す）。

就寝時は、寝返りなどによって布団が暖房器具に接触し、発火するおそれがあります。また、就寝中や外出中は異常の発見が遅れ、火災が拡大するおそれがあります。就寝時や外出時は、暖房器具を使用したままにせず、必ず電源を切る（火を消す）ようにしましょう。



電気ストーブに布団が接触して発火

「電気」暖房器具の点検ポイント

☑1.製品がリコール対象製品ではないか確認する。

電気暖房器具ではリコール対象製品での事故が多くなっています。使用している製品がリコール対象製品かどうかこまめに確認してください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しており、お手持ちの製品がリコール対象製品かどうか確認できます。電気暖房器具に限らず使用している製品がリコール対象になっていないか確認しましょう。

〇消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



https://www.recall.caa.go.jp/

〇NITE SAFE-Lite（ナイト　セーフ・ライト）のご紹介

NITEはホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

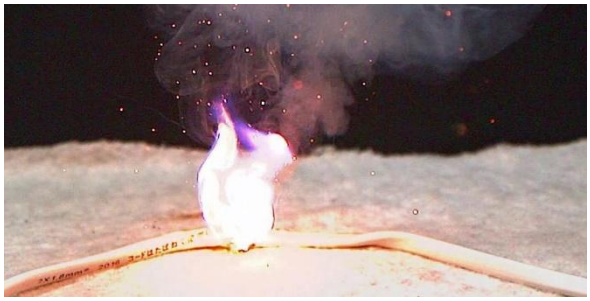


https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html

☑2.電源コードや電源プラグが破損・変形していないか、たこ足配線になっていないかを確認する。

電気暖房器具を使用する前に、以下の点に注意して電源コードや電源プラグを確認してください。また、電気暖房器具は消費電力が大きいため、取扱説明書で延長コードの使用が禁止されていることがあります。延長コードを使用する場合は、接続した機器の消費電力の合計が延長コードの最大消費電力を超えないように注意しましょう。

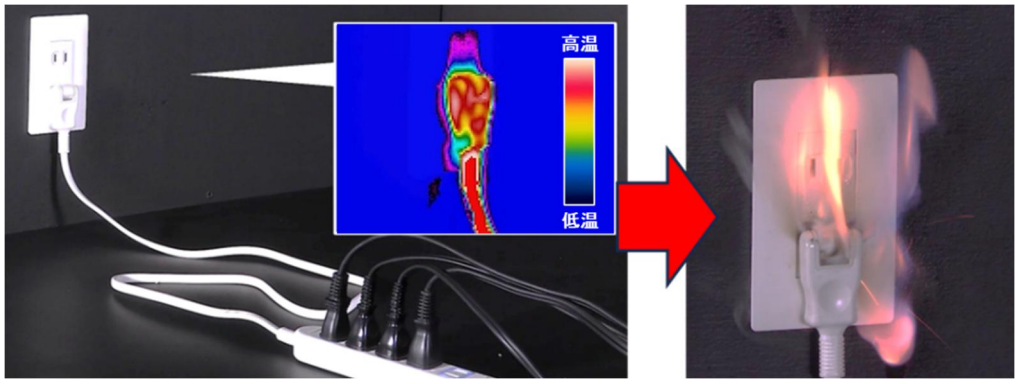
- **電源コード** ･･･ 被覆に破れや亀裂がないか、硬化していないか確認する（電源コードを少し曲げたりして確認する）。
  特に電源コードの本体側やプラグ側の根元付近を確認する。
- **電源プラグ** ･･･ 変形していないか、変色していないか、溶けていないか確認する。
  コンセントが変形している場合もあるため、
  コンセントに差したときに、緩く抜けやすくなっていないか確認する。



断線した電源コードの発火



外力で変形・破損した電源プラグの発火



消費電力の超過により発火

「石油」暖房器具の点検ポイント

☑1. ほこりがたまっていれば取り除く。

使用を始める前に掃除を行い、シーズン中も定期的に掃除をしてください。特に石油ストーブの置台や、燃焼部付近にほこりがたまらないようにしてください。

石油ストーブにほこりなどが堆積すると、燃焼状態が悪くなったり、炎が逆流して石油ストーブの下からあふれる「吹き返し現象」が生じてほこりに引火したりするおそれがあります。

また、石油ファンヒーターでもほこりにより空気取込口が閉塞することで異常燃焼する事故が発生しています。



（掃除不足の例）
置台にたまったほこり

☑2. 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。

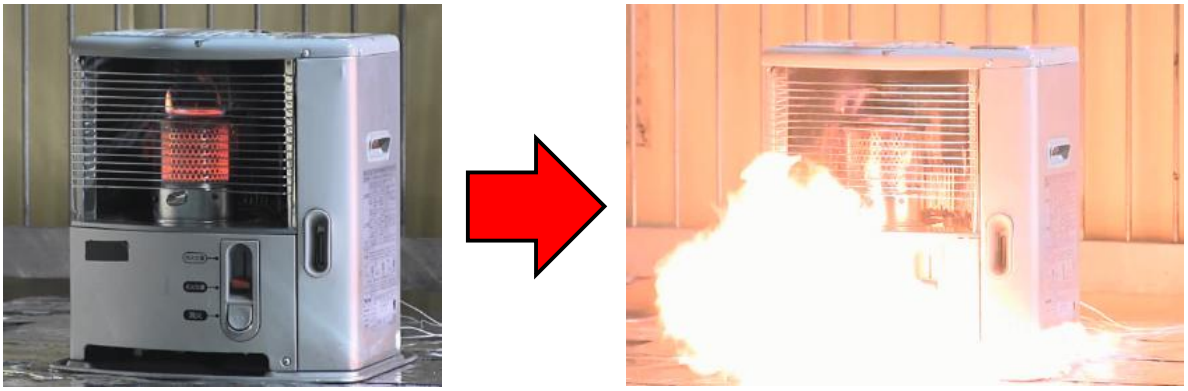
石油暖房器具には、昨シーズンの残りではなく、新しい灯油を使用してください。灯油は時間の経過とともに劣化するため、昨シーズンの灯油をそのまま使用すると、異常燃焼や一酸化炭素の多量発生につながるおそれがあります。

劣化した灯油は、薄い黄色に変色したり、すっぱいにおいがしたりすることがあります。ただし、保管状況によっては色やにおいに大きな変化がなくても劣化している場合があるため、昨シーズンの灯油は使用しないようにしましょう（災害時など、やむを得ず使用する場合は、変色や異臭の有無などを確認してください）。

また、誤って“ガソリンや混合燃料”を給油すると、少量の混入であっても火災のおそれがあります。灯油は灯油用ポリタンクなどの専用容器※12に、ガソリンは消防法に適合した金属製のガソリン携行缶に入れて保管し、「別の場所で保管する」「ラベル表示で区別する」など、誤給油を防ぐための対策を徹底してください。

昨シーズンの灯油が残っていた場合は、タンクや機器本体から灯油を抜いて、灯油の処分については、灯油を購入した販売店に相談してください。

（※12）日本ポリエチレンブロー製品工業会(JBA)推奨ラベル、危険物保安技術協会（KHK）の試験確認済証、JISマーク（JIS Z 1710　灯油用ポリエチレンかん）などが表示されているもの。



ガソリンの誤給油により爆発的に燃え上がる様子

3. カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

給油後は、給油口ふたがしっかり閉まっていることを必ず確認してから本体にセットしてください。また、給油する際は、**必ず先に消火してください**。

灯油が機器本体にこぼれた際は、機器内部に浸入しているおそれがありますので、使用を中止し、機器の販売店やメーカーに相談してください。

なお、2011 年以降に販売された製品[※13]では、灯油のこぼれを防止するために、給油口ふたが閉まっていることの確認がしやすくなっています。また、給油口ふたが外れても灯油がこぼれない構造のものもあります。

給油口ふたが閉まっているかの確認方法

1



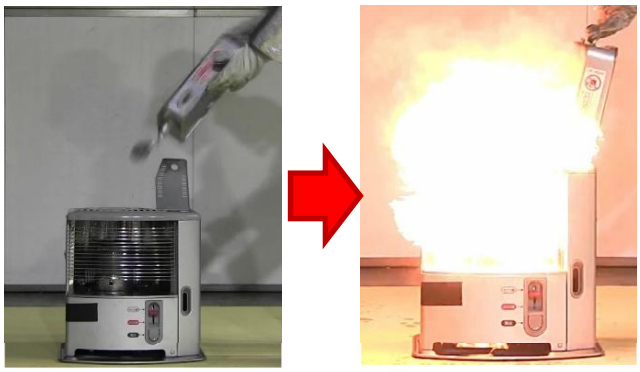
音や目視、感触などで
しっかり閉まっていることを確認

2

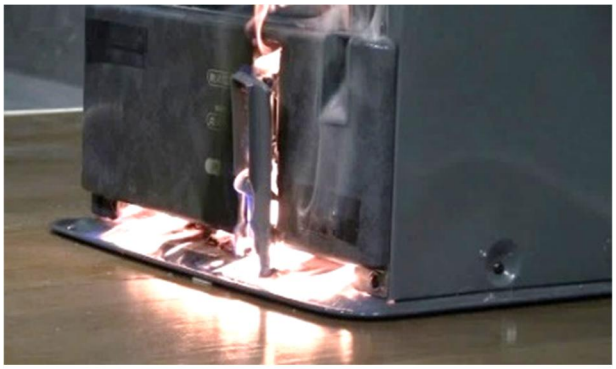


火気の無い場所で給油口ふたを下にし、灯油の漏れがないことを確認

（※13）石油ストーブ等の石油燃焼機器は、2009 年に消費生活用製品安全法の「特定製品」に指定され、2011 年以降に販売された製品では、給油口ふたが音や目視または感触などで閉まっていることの確認ができる機能があります。



消火後間もない高温の燃焼筒に灯油がかかり引火



点火時、こぼれた灯油に引火

その他、初回点火時は燃焼状態を確認し、異常なにおい、煙、炎の異常、異音、灯油漏れがないか確認し、異常が認められたら、消火して使用を中止して、機器の販売店やメーカーに相談してください。

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構　製品安全センター　所長　川崎　裕之

担当者　製品安全広報課　山副　敦司、清水　与也

Mail　：ps@nite.go.jp　　Tel　：06-6612-2066

（別紙 1）

【参考情報】一般消費者へのアンケート結果（東京都）

東京都が都内在住の 20 歳以上の男女 2 万人を対象に実施した暖房器具に関するアンケート調査（インターネット調査）の結果のうち、意識調査の一部を紹介します。

〇出典・引用：東京都生活文化局「ストーブの安全な使用に関する調査」（平成 26 年 11 月）
https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/test/documents/houkokusyo_stove.pdf

１．暖房器具についての火災危険度の認識

主な暖房器具（エアコン、石油ストーブ、電気ストーブ、ガスストーブ、石油ファンヒーター）について、火災危険度の認識を順位付けした結果（図 1.17）、石油ストーブが 1 位の割合が多く、電気ストーブは 4 番目の割合が多い結果となっています。

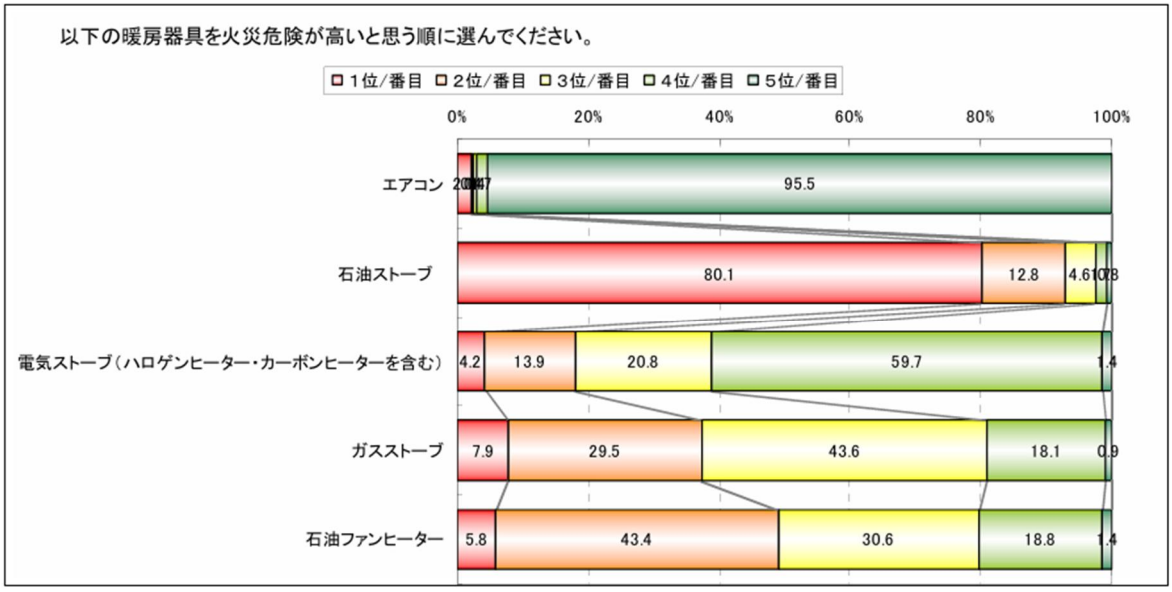


図 1.17 暖房器具の危険度認識

２．使用場所及びその広さ（電気ストーブ）

電気ストーブを使用している 520 人に対して、使用場所及びその広さのアンケートの結果（表 2.5）、電気ストーブの「使用場所」としては、居間が 64.4%と最多で、次に寝室が 36%と多くなっています。

表 2.5 使用場所及びその広さ（電気ストーブ）

	あなたは電気ストーブをどこで使っていますか？また、使用している部屋の広さはどれくらいですか？それぞれについてお答えください。	全体	1 4畳半以下	2 ～6畳	3 ～8畳	4 ～10畳	5 それ以上	6 この場所では使用していない	使用合計 上段は件数 下段は%表示
1	居間	520	16	110	82	66	61	185	335
		100.0	3.08	21.15	15.77	12.69	11.73	35.6	64.4
2	寝室	520	19	112	43	11	2	333	187
		100.0	3.7	21.5	8.3	2.1	0.4	64.0	36.0
3	台所	520	36	38	10	6	3	427	93
		100.0	6.9	7.3	1.9	1.2	0.6	82.1	17.9
4	洗面所	520	64	9	0	1	2	444	76
		100.0	12.3	1.7	0.0	0.2	0.4	85.4	14.6
5	浴室の脱衣所	520	94	10	1	2	2	411	109
		100.0	18.1	1.9	0.2	0.4	0.4	79.0	21.0
6	その他	520	33	39	2	2	2	442	78
		100.0	6.3	7.5	0.4	0.4	0.4	85.0	15.0

３．電気ストーブ使用時における物との離隔距離

電気ストーブを使用している 520 人に対して、「電気ストーブ使用時における物との離隔距離」のアンケートの結果（図 2.14）、取扱説明書では正面の離隔距離は主に 1ｍ以上と記載されているところ、1ｍ未満での使用は 63.1%と多くの人が取扱説明書に記載されている距離より近い位置に物を置いていました。

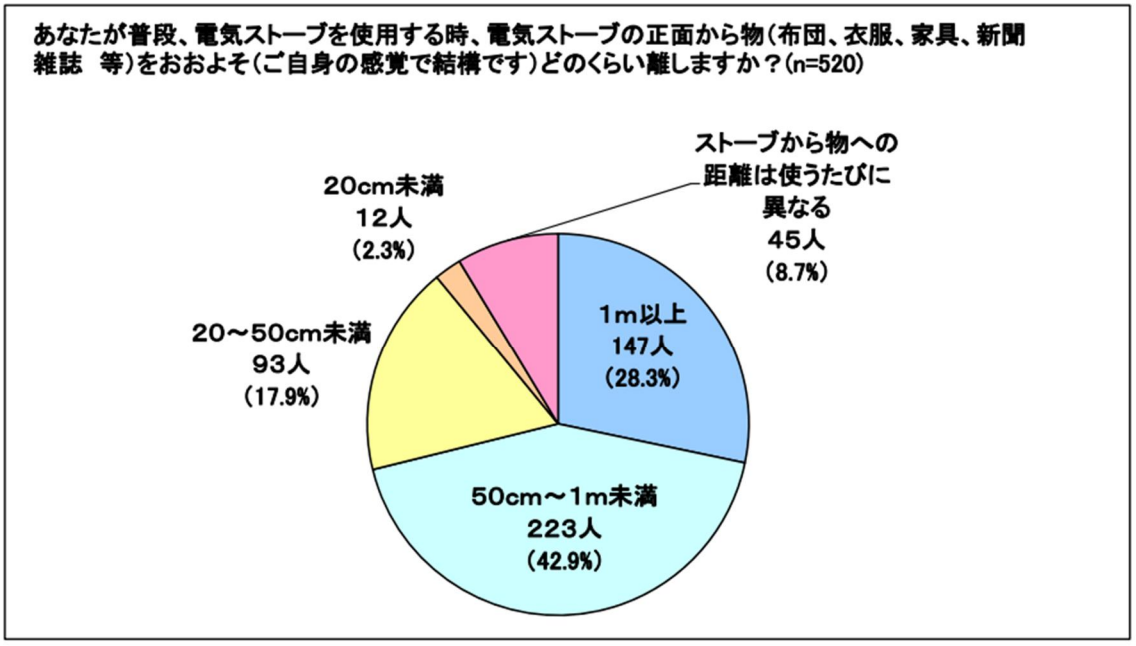


図 2.14 離隔距離（電気ストーブ）

（別紙 2）

石油ストーブの火災の消火方法・避難の目安について（神戸市消防局監修）

火災発生時の消火方法・避難の目安について

○炎が背丈を超えていたら避難する。

火元の高さに関わらず炎が背丈を超えている場合や天井まで達していた場合、初期消火は困難となりますので、炎の高さが背丈を超えていたら避難するようにしましょう。

特に高齢の方は、消火しようとして逃げ遅れることが多くなっていますので、**“身の安全を第一”**に、身の危険を感じたり、迷ったりした場合はひとまず避難するようにしましょう。



炎が背丈より高い様子
（※イメージ）

○石油ストーブの火災は消火器で消火する。

石油ストーブの火災は消火器※で消火するようにしてください。また、**初期消火をする前には必ず「安全確保」「避難経路の確保」を行ってから実施してください。**

すぐに消火器をとりにいけるよう、事前にどこに消火器を置いているか、消火器が使いやすい場所にあるかを確認しましょう。

（※）消火器の火災種別がＢ火災（油火災）対応のもの。

・消火器の使用方法等については以下を参考にしてください。
神戸市-住宅用消火器
https://www.city.kobe.lg.jp/a10878/bosai/shobo/bouka/syoukaki/shoukaki.html



消火器で消火